

■仁徳天皇陵古墳の最新成果■

仁徳天皇陵（にんとくてんのうりょう）古墳は、5世紀中ごろに築かれた前方後円墳です。

百舌鳥（もず）古墳群のなかでもっとも大きく、日本最大の長さを誇り、世界の墳墓（ふんぼ）のなかでも屈指の規模をもちます。

3段に築成され、3重の周濠と、2重の周堤に囲まれています。

全長は486mとされてきましたが、近年、古墳を所管する宮内庁による三次元測量の結果が公表され、525.1mであるとの知見が示されています。

また、地元である堺市が宮内庁に協力する形で、墳丘の保全整備計画策定を目的とする発掘調査が行われています。

内側の周堤で実施されたこの調査により、周堤の両側に円筒埴輪を並べていたこと、その際、底部を打ち欠いて高さを調整していたこと、周堤上の平坦面には石敷きが施されていたことなど、新たな知見が得られています。